

出展ゾーン



下水汚泥肥料化のパッケージソリューション

安全で良質な下水汚泥肥料を生産し、持続可能な社会に貢献

下水処理場から資源工場へ ヴェオリアの“エコファクトリー”構想

ヴェオリアグループは下水処理場を単なる汚水処理施設から資源を生み出す工場“エコファクトリー”へとその価値を高めることを目指し、世界中で活動しています。なかでも下水汚泥の肥料利用は重要な取り組みの一つで、日本においてもこのたび「木更津市下水汚泥堆肥化施設整備事業」を受注し、4月より事業を開始しました。

汚泥肥料化事業のトップランナー Veolia Agriculture France

当社グループは長年にわたり、この分野におけるノウハウを蓄積しています。ヴェオリアのグループ企業である Veolia Agriculture France は、フランス国内で30年以上にわたり下水汚泥の肥料化事業に取り組んできました。現在はフランス各地で汚泥肥料化施設を運営し、年間360万トン以上の有機廃棄物を肥料化、全量が農業利用されています。同社では「利用者目線の肥料製造」「安全・安心を担保する品質管理体制」「肥料製造から農地利用までの全過程を見える化するトレーサビリティシステムの構築・運用」を肥料化事業継続のための重要なファクターと捉えています。

良質な肥料は、良質な汚泥から HUBGRADE™ SMART Bio-P

りん除去に特化した技術も有しています。「HUBGRADE SMART Bio-P」は、流入負荷変動に応じたばっ気風量や返送汚泥量等、複数の運転パラメーターをリアルタイムに制御する運転管理ソフトです。OD法や標準活性汚泥法でも生物学的りん除去を促進し、汚泥中のりん濃度を向上させることで、汚泥肥料の品質向上を実現します。

下水汚泥の肥料化を通じて、地域に貢献 木更津市下水汚泥堆肥化施設整備事業

【事業の概要】

- ・事業目的：下水汚泥の全量有効利用による未利用資源の有効利用
下水汚泥堆肥化物の緑農地利用による「オーガニックなまちづくり」の構築
- ・事業場所：木更津下水処理場内
- ・事業期間：2025年4月1日～2047年3月31日
- ・設計・建設期間：2025年4月1日～
2027年3月31日
- ・維持管理期間：2027年4月1日～
2047年3月31日
- ・処理能力：年8650.5トン（脱水汚泥）
- ・事業者：きさらづ地域資源共生アライアンス
（代表企業：株式会社西原環境）

【提案の特長】

- ・つくる：安全安心で高品質なコンポスト製造と脱炭素を両立
- ・つなげる：地域での肥料利用促進と地域貢献
- ・ひろめる：木更津市の掲げる「オーガニックなまちづくり」をともに推進



小間番号

■ 3号館 ■

3-216

【出展者】 ヴェオリア・ジェネッツ(株)

【所在地】 〒108-0022 東京都港区海岸3-20-20 ヨコソーレインボータワー

【連絡先】 TEL：03-6858-3300 Eメール：jp.adm.bd-contacts.int.groups@veolia.com

担当部署：官需事業開発本部